

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本加-ジャー(株)平塚新工場第二期建設工	階数	地上6F
建設地	神奈川県平塚市長瀬2-12	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域:指定なし	平均居住人員	147人
気候区分	地域区分	年間使用時間	7,500時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月 予定	評価の実施日	2013年3月8日
敷地面積	16,042 m ²	作成者	(株)日新工営 東京支店
建築面積	5,743 m ²	確認日	2013年4月5日
延床面積	21,391 m ²	確認者	(株)日新工営 東京支店



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 75%

上記+ 以外の: 75%

上記+: 75%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 熱線吸収タイプの窓の採用や工場棟の無窓化などに加え、LED照明の採用や高効率空調機器の採用により省エネ型工場を目指した。		0
Q1 室内環境 1. 個別空調(マルチ型)の採用で室毎の空調を実現。 2. 昼光率 2.5%以上。 3. 全居室に全熱交換器を採用し、建築基準法第28条の約1.5倍(平均)の換気量を確保。	Q2 サービス性能 1. 居室の天井高2.7mを標準とし、大型窓で景観を向上。 2. ドレンや排水管に塩ビ管を採用、耐用年数を向上。 3. 平均階高4.2mを採用した。 4. 大型P.Sと、1.5mの天井スペースで更新性を向上。 5. P.Hに設備架台を設置、機器の集中化で更新性向上。 6. バックアップスペースも、現状専有面積と同スペースを確保。	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー 1. 工場棟は無窓構造とし、また事務所棟は東面のみ窓を配置して、日射負荷の低減に務めた。 1. 調光機能付LED照明の採用。 2. 高効率空調「ボックバックス」(マルチ型)の採用。	LR2 資源・マテリアル 1. 人感センサー型小便器や節水型便器の採用。 2. LGS下地で躯体と仕上げ材の分離解体を安易化。 3. 発泡剤を用いた、断熱材を使用していない。	LR3 敷地外環境 1. LED照明の採用などにより、運用面での改善によりライフサイクルCO ₂ の削減。 2. 十分な駐車スペースと、管理用車両と物流車両との動線を個別確保。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される